

2024年度 第5回9月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2024年9月11日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数2名
出席総数7名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	石松英昭
	委員	若井明香
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	藤原紀沙
	委員	井出智子

4. 議 題

- (1) 「CRT 高校野球実況中継 決勝戦 石橋 対 國學院栃木」
放送日 7/28 日曜日 9:53～
高校野球中継決勝戦の1時間ダイジェストを試聴

- (2) その他

5. 議事内容

- (1) 「CRT 高校野球実況中継 決勝戦 石橋 対 國學院栃木」について
番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

番組概要

開局当初から実施している、全国高校野球選手権栃木大会（夏の高校野球栃木大会）の実況中継です。甲子園大会出場を賭けた高校球児のプレーや試合経過を、詳細・正確に聴取者に伝えることを第一としています。

今夏は2回戦から決勝戦まで計13試合を中継しました。

試聴番組内容

7月28日（日）午前9時53分～放送 決勝戦 石橋 対 國學院栃木

解説：岩崎良夫（作新学院高-広島カープ）実況：斎藤 巖（フリーアナ）

石橋が、激しい点の取り合いを制し初優勝を決めた試合です。

3時間以上に及ぶ長時間の試合となったため、1回表・2回裏・6回裏・9回裏を試聴いただきます。

実況中継アナウンサー・解説者について

解説者：今夏は5名を起用（元プロ・六大学野出身・元審判員等）。

アナウンサー：今夏は4名で実施（社内アナ1名、フリーアナ3名）。

放送の反省と課題

全体

・高校野球を取り巻く昨今の事情（積極的に休憩・給水を取る等）により全体の試合時間が伸びたため、数試合、放送枠に収まらなかった。

実況席

- ・得点、打撃結果等の実況間違いがあった。
- ・放送席スタッフを最小人数で構成しているため、試合中断の詳細理由（選手ケガの状況）が取材できず、一部で内容的にわかりにくい放送になった。
- ・打球音、捕球音等をもう少し明瞭に放送に乗せられないか、技術部と検討する。

各委員からは

- スタッフの人数に限りがあり試合中の打球音や選手の状況収集などが取ることができないという問題があると資料に書かれていたが、実際に聞いた内容は解説が適切で臨場感があり、非常にわかりやすかった。私は、テレビで決勝戦を観ていたため、ラジオの解説とテレビの映像がリンクして理解しやすかった。ラジオを聞く人にとって、選手の背景や現在の状況が適度に含まれており、目に浮かぶように情報が伝わっていたと思う。また中継中のスポンサーCMのタイミングをどのように入れているのか少し気になりました。
- 高校野球の放送は、関係ない人にとっては無駄な時間と感じられるけど、母校愛で中継を聴くリスナーが増えるから、栃木放送にとってはチャンスだと思う。今回聴いた放送については、試合中の高校や出身校についてもっと詳しく話して欲しいと思いましたが、今回の番組審議に出た素材は編集後のものだから入っていなかったと思いますが、やはり中継中にはそういう情報があった方がリスナーには良いと思う。それと、実況アナウンサーと解説者の話し方に温度差を感じたので、今後改善した方がよいと思いました。実況アナウンサーは、長くやってるベテランだけあって、話が滑らかで歯切れも良かったが興奮しすぎる部分もあったので、もう少し冷静さも必要だと感じました。
- テレビ等を見られない人にとって、また球場で見えてもラジオを聴くことで、より選手の情報等を聴くことができラジオ中継は良いと思う。ただ、どれくらいの聴取率になるのか（通常より上がるのか）は気になりました。アナウンサーの声も良く臨場感があり、野球の様子を音声でイメージすることができた。ピッチャーのこれまでの成績、バッターのこれまでの打率などの紹介もあり、どのような選手なのかも分かった。解説者も適度であったと思う。こちらの聴き漏れかもしれないが、投手（左右、オバースロー、汗をぬぐう等）や、打者の特徴（左右、大振り等）の実況があると、より選手の状態等も伝わったかもしれない。
- 雑談からですが、私がラジオで野球を聴くようになったのは、祖父が風呂に入りながら高校野球を聴いていたのがきっかけで、学生時代もラジオで好きな球団の試合をよく聴いていました。なのでラジオの野球放送には思い入れがあります。今回の放送について評価するのは難しかったですが、試合結果を伝えるという目的は十分に果たされていたと思います。実況のミスなどもあったようですが、個人的には気になりませんでしたし、音もよかったです。野球ファンには満足してもらえた番組だったと思います。ただ、もし栃木放送がこの番組をもっと自慢できる「キラコンテツ」にしたいなら、野球ファンだけでなく、これをきっかけに栃木放送のファンを増やすための工夫が必要かなと思います。プロ野球の「ショーアップナイター」みたいに、高校野球ももっと「ショーアップ」するべきかは分かりませんが、ラジオならではの良さ、例えばインニングの間に

選手や応援団の声などを取り入れると良いのではないのでしょうか。また、人手が少ないという話がありましたが、もし必要なら市民レポーターや高校の放送部の子どもたち、専門学校生などに声をかければ、喜んで手伝ってくれると思います。すべての試合でなくても、せめて決勝や準決勝で協力を得るのは良いアイデアかもしれません。

○アナウンサーの臨場感ある発信力は一聴取者としても良いと感じました。具体的には、進行形の試合の状況とともに過去の戦績やベンチの動きなどもタイムリーかつ細かな情報も発信していて、情景が目に浮かぶ内容だと感じました。選手家族や友人、応援団の応援風景まで、景色として伝わりました。アナウンサーと解説者との掛け合いや、タイミング良く解説者が的を得たコメントも程よく入っていると感じました。打球音、補球音を精度良くとの反省があるようですが、応援団の声援や吹奏楽の音楽がクリアに入り、全校生徒の応援が目に浮かぶ臨場感を感じました。女子生徒の場内アナウンスも良い感度で入っていて全体的に音質が良かったと思います。情景が目に浮かび、栃木県高校野球史上に残る熱戦、高校野球の醍醐味を感動しながら聞けました。

○私も子どもの頃から野球が好きで、今回の放送を聞いて昔を思い出しました。特に石橋高校と國學院栃木の試合は、本当に感動的で、逆転劇があつて「もうダメか」と思った瞬間もあったけど、結果的に素晴らしい試合だったと思います。テレビとは違って、ラジオではプレーごとの状況をリスナーにしっかり伝える必要があつて、その点で放送はよく対応できていたと思います。ベテランのアナウンサーがポイントを押さえた実況をしていて、とても良かったです。ただ、一部プレー中の打球を取ったかどうかなど、肝心なところが聞きづらい部分がありました。解説者が冷静に話していたのもあつて、実況アナウンサーとの温度差を少し感じました。

○栃木放送の高校野球中継はもうかなり完成形に近づいてると思います。うちの新聞社でも高校野球は大人気で、インニング速報がすごく見られています。実況も上手で、音もしっかり入っていたので、大きな反省点はないと思いました。今回聴いた試合は、栃木の高校野球史上に残るような素晴らしい試合で、特に石橋高校の逆転劇が印象的でした。結果は知っていましたが、実況ならではの臨場感があつて本当に楽しめました。ただ、もしこれがもっとつまらない試合だった場合、どうやって盛り上げるのが課題だと思います。例えば、エラーが多かったり、観客が少なかったりする時に、どうやって放送を面白くできるのか、人数が限られている中での工夫が必要だと感じました。市民レポートや専門学校生を活用するというアイデアはありますが、それも手間がかかるので難しい面があります。高校野球ファンはありがたく聞いていると思いますが、それ以外の人も興味を持つ工夫が必要だと思います。

○私はこれまであまりラジオの野球中継を聞いたことがなかったので、新鮮な気持ちで今回聴きました。テレビの実況とは違って、ラジオならではの音や臨場感がすごく良かったです。一方で、今はテレビや新聞、オンラインコンテンツが充実している中で、ラジオがどんな情報を伝えるかがとても大事だと感じました。私は野球実況に詳しくないので他のものも少し見てみたんですが、高校生の頑張りやドラマを伝えることがラジオの大きな役割なんだと改めて思いました。

○私、野球はあまり好きじゃなくて、野球の1時間ぐらいの実況放送を聞くのも今回が初めてだったんですが、意外と良いものだなって思いました。アナウンサーはもちろんですが、解説者が非常に重要な役割を果たしていることに気づきました。実況放送って、臨場感をどうやって出すかに工夫が凝らされていて、大事なものと改めて感じました。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2024年9月29日）
- ② 当社のホームページに掲載（2024年10月3日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2024年10月1日～）

以上